



カリフォルニアの風

サンフランシスコ日本語補習校 令和3年6月号

集中学習が始まります

最近、アメリカでは日本のプロスポーツ選手の活躍に目ざましいものがありますね。ゴルフの松山英樹選手は全米プロゴルフ選手権で優勝、私たちが校舎を借りているGiannini校やLowell校の近くのオリンピッククラブで行われた全米女子オープンでは、笹生さんと畑岡さんがプレイオフを闘い笹生さんが優勝。大リーグではエンゼルスの大谷選手が大きな活躍をしています。

スポーツ選手や監督の言葉の中で、「失敗や負けた試合には、成長するヒントが隠されていました。」という言葉に耳にしたことはありますか。

かの発明王エジソンやノーベル賞を受賞した科学者たちの言葉にも、共通するものはいくつかあります。例えば、「夢や目標を持つこと」「あきらめずに、挑戦し続けること」や、「多くの失敗の中に、成功の元になるものがあつた」というものもあります。皆さんはどう思いますか。勝負に勝ったり、思い通りにものごとが進んだりした時に、もっと意欲が湧き一層努力して、次を頑張ろうと思うのではないのでしょうか。失敗するより成功する方がいいに決まっていますよね。それでも、失敗の中にこそ成長するヒントがあるのでしよう。

スポーツや学術研究の世界だけでなく、私たちの生活も成功と失敗のくり返しではないのでしょうか。宿題をやるのを忘れて寝てしまったり、朝寝坊をして、登校時間にギリギリになってしまったりすることもあるでしょう。長い人生ですから、そんなこともあります。もちろん、それが当たり前になっているような人は、社会生活を営む上で、これから大変なおもいをするでしょうし、人からも信頼されなくなってしまうかもしれません。でも、たまに、そんな失敗があつた後に、どんな行動をとるかで、その人の真価が問われるのだと思います。

宿題を忘れたら、「すみません。明日必ず提出します」と言えたり、遅刻しそうになったら、走ることや早足でなるべく遅れを取り戻そうとしたりする行動が、その人の社会的信用を築くことになり、「もう同じ失敗をしないようにしよう」という、その人の戒めにもなると思います。私たちの暮らしの中でおこる失敗は、私たちを成長させるエネルギーだと思って、失敗を恐れずに挑戦していきたいものです。

ことわざの中には「若いときの苦勞は、買ってでもしろ」と言う、とんでもないことわざもありますが、「確かにそうかな」とも思います。

戦国時代の武将で、山陰の^{あまこけ}尼子家の武将で、山中鹿之助という人物がいました。彼は、取りつぶされた尼子家の再興を願ひ織田信長側について、宿敵・毛利と戦ったのですが敗

れ命を落とします。そんな壮絶な人生の中で、鹿之助の言葉が凄いです。鹿之助は、尼子家再興を願って、「願わくば、我に七難八苦を与えたまえ」と三日月に祈ったと言われています。

七難八苦とは「ありとあらゆる苦難」を言うのですが、さすがにそこまでは考えられませんが、現代に生きる皆さんだって、生きていけばいろいろな事があります。人生いろいろです。（諸説ありますが、鹿之助の言葉ではないのではないかととも言われています。）

どんな失敗があったとしても、恐れずに挑戦してください。そして、失敗したら、そのままにしないで、それをチャンスと考えて、挽回する努力をして欲しいと思います。ピンチをカバーする行動が、あなたにチャンスを与えてくれるのです。

現地校の学年末にあたって、こんな事を考えました。そして補習校では集中学習が始まります。通常の補習校の授業とは違って、一週間の中に4回の授業日があります。毎日の授業での学習や課題もあると思います。いつもは英語での学習の中に、日本語での学習があるのですが、集中学習の3週間は日本語に浸って学習して欲しいと思います。まだ、現地校の授業が続いている人もいるかもしれませんが、ピンチと考えずに自分を伸ばすチャンスと考えて集中学習に臨んでください。そして、授業中は失敗を恐れずに、自分から積極的に発言して欲しいと思います。